

令和3年度 白川郷学園社会科研究構想

【社会科での児童生徒の実態】

○身の周りの社会的事象に対して興味をもち、資料から分かったこと、考えたことについて意欲的に発言したり、ノートにまとめたりすることができる。
△学習した内容や身に付けた方法を活用して、問題の解決方法を考えていく姿に弱さがある。

【学校教育目標】

ひとりだち

自立 共生 貢献

【社会科で今後求められるもの】

- ・よりよい社会を実現するために、確かな事実をもとに、広い視野に立ち、自らの社会の関わり方を主体的に選択・判断し、行動ができる。
- ・グローバル化する国際社会において、平和で民主的な国家及び社会を形成していく一員となる。

【白川郷学園で求められる児童生徒像】

- ①自立・・・意欲的に学び、より質の高いものを自ら求め続ける子
- ②共生・・・対話的に学び、仲間と協力して活動する子
- ③貢献・・・深く学び、仲間・地域のために行動する子

【研究主題】 「先を読む力」を発揮し、学びを加速させる姿を目指して

【全教育活動を通して育てたい資質能力：先を読む力】

先を読む力とは、児童生徒が主体的に問題解決の方法を生み出していく力である。この力は、教師が手立てを与えすぎずの中では培われることはない。全教育活動を通して、児童生徒が、これまでに身に付けた既習内容や生活経験、様々な見方・考え方を駆使して、仲間との対話をしながら試行錯誤する営みを繰り返す中で、培われるものであると捉えている。

【社会科で願う子どもの姿（「先を読む力」を発揮している姿）】

問題解決に活用できそうな資料や既習事項、生活経験を自ら選び取り、問題解決の見通しをもって、社会の仕組みや社会的事象の意味、社会への関わり方を考える姿。

【研究内容・具体的な手立て】

(1) 主体的に問題を見いだす導入の工夫	(2) 自ら解決方法を生み出す学習活動の工夫	(3) 自己の学びを自覚する終末の工夫
<ul style="list-style-type: none">・ 児童がもつ認識と事実とのズレから、児童にとって必然性のある問いを生み出す、資料提示や発問の工夫。	<ul style="list-style-type: none">・ 追究視点の明確化と、追究資料の選択をして問題解決の見通しをもつ場の設定。・ 仲間との対話から、考えを広げたり深めたりするための交流や発問の工夫。	<ul style="list-style-type: none">・ 既習の学習内容を相互に関連させたり、自分の生き方につなげたりすることができるための視点を明確にした学習のふり返りの場の設定。

第4学年 社会科学学習指導案

日時 令和3年10月8日(金)

場所 4年生教室

授業者 澤之向 達也

1 単元名 「残したいもの 伝えたいもの ～白川郷荻町集落～」

2 本時のねらい (7/9)

白川郷荻町集落で50年守られてきた住民憲章を見直している理由について話し合うことを通して、地域の現状や課題と関連付けながら、今後の世界遺産の守り方について考えることができる。

本時における「先を読む力を発揮して、学びを加速させている姿」

村の現状を基に荻町集落の将来を予測しながら、村民学での体験学習や保存の歴史に関わる既習事項を活用したり、学習支援ツールによる他者との比較をしたりして、よりよい世界遺産の守り方について考える姿。

3 本時の展開

過程	主な学習活動	指導・援助(・) / <研究内容>
導入	<p>1 守る会が住民憲章3原則「売らない・貸さない・こわさない」の「貸さない」の変更を検討中という事実から課題をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・50年守ってきたきまりを変えていいのかな。 ・変えないといけない理由があるのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の「3原則」の意義、50年続いた事実に着目する事象の提示を行うことで、課題意識を高めることができるようにする。<研究内容1> ・追究の視点を整理することで、同様の立場の仲間の考えを参考にしながら追究できるようにする。<研究内容1> ・タブレットで全員の考えを共有することで、目的に応じて交流する相手を選択できるようにする。<研究内容2> ・住民憲章の見直しは何を守ることにつながるのか問いかけることで、村の現状と関わらせながら考えることができるようにする。 ・守る会の当事者の視点を提示し、「誰にでもどんどん貸していくことは守ることにつながるのか？」と問いかけることで、貸すことのデメリットの面から自分の考えを再構築することができるようにする。<研究内容2> ・単元の課題について振り返る視点を与えることで、学んだことを自覚できるようにする。<研究内容3>
	<p>学習課題 なぜ、守る会は、50年守り続けた住民憲章の「貸さない」を変えようとしているのだろう。</p>	
	<p>2 予想する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸すことで誰かに住んでもらい、合掌造りを守れる。(建物) ・村民として住んでもらい、結も守っていける。(結) ・貸して住んでもらい田んぼも一緒に守ってもらえる。(景観) 	
展開	<p>3 追究する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の方が住む合掌造りが数件ある。これまでは親族で守ってこれていたけど引き継ぐ家族がない家が増えている。 ・合掌造りを守るためには住んで建物をお世話する人が必要だ。 ・住んでいる人がいるというのも世界遺産の一部だと聞いた。 ・田んぼの景観も世界遺産の一部だよ。村全体でも人手が足りていないから、自分で田んぼをお世話してもらえる。 ・結で葺き替えを行っている活動も担い手不足だ。貸して住民を増やすことで、結も守っていくことができる。 	
	<p>4 深める</p> <p>白川郷荻町集落の自然環境を守る会の会長の話(貸すことのデメリット)を基に世界遺産の守り方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰にでも貸したら、後継者問題が解決するわけではない。 ・建物だけでなく結も大切にしてくれる人に貸さないと困る。 ・貸す人に優先順位や住む条件を細かく付ければ、建物だけでなく結や景観も守っていける人に貸せるはずだ。 ・条件に合う人を見つけるのは簡単ではないから、守る会は話し合いやいろいろな取り組みを続ける努力をしているんだ。 	
終末	<p>5 まとめる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>なぜ、住民憲章の「貸さない」を見直すかということ、近い将来に後継者がいなくなる問題を解決して世界遺産を守るためだということが分かった。でも、貸す相手にもいろんな条件を付けられないといけないから、これから先も世界遺産を守っていくことは簡単なことじゃないと思った。自分たちも、村民として世界遺産を守るためにできることについてもっと考えていきたい。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の現状や課題と関連付けながら、世界遺産の守り方について考えている。【思考・判断・表現】(ノート記述・発言内容) </div>

4 単元のねらい

知識及び技能	歴史的背景や現在に至る経過，保存や継承のための取り組みなどについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして，必要な情報を集め，読み取り，県内の文化財や年中行事の様子，県内の文化財や年中行事には地域の発展など人々のさまざまな願いが込められていることを理解することができる。
思考力、判断力、表現力等	歴史的背景や現在に至る経過，保存や継承のための人々の営みに着目して，問いを見出し，人々の工夫や努力と地域の人々の願いを関連付けて，人々の願いや努力について考えたり，地域の伝統や文化の保存や継承に関わって，自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりすることができる。
学びに向かう力・人間性等	県内の文化財や伝統行事について，予想や学習計画を立て，学習を振り返りながら，問題解決をしようとするすることができる。地域の伝統や文化の保存や継承に関わって，自分たちにできることなどを考えようとするすることができる。

5 本単元における「先を読む力を発揮して，学びを加速させている姿」



古くから受け継がれた伝統は、モノだけを守ってきたのではなく、人の願いも受け継いできたことが分かった。自分たちの地域にある合掌造り集落も、合掌造りだけでなく、住んでいる住民や結の心も世界遺産の1部だ。これから先も伝統を守っていくためには、変えてはいけないものと、時代に合わせて変えていかなければいけないことを考えていく必要があることが分かった。この先も白川村の人口が減少していくから、今後の世界遺産の守り方について、もっと考えていきたい。

6 指導計画

時	学習課題	ねらい
1	県内にある古くから残るものを調べて，学習計画を立てよう。 (明治座、真桑文楽、高山祭)	古くから残るものの現在に至るまでの経過に着目して問いを見出し，問題解決をする見通しをもつことができる。【思考・判断・表現】
2	自分たちの地域には，どんな古くから残る建物や芸能，祭りがあるのだろうか。	学習支援ツールを活用し，地域にある古くから受け継がれたものについて建物、芸能、祭りの3つに整理することができる。【知識・技能】
3	どのようにして，白川郷荻町集落は世界遺産に登録されたのだろうか。	村民学で学んだ知識を活用して白川村の荻町集落の歴史的背景に着目して，集落の何が村の宝として守られるようになったかについて調べ，理解することができる。【知識・技能】
4	住民の生活は，世界遺産に登録されたことで，どう変わったのだろうか。	図書館にある白川村の郷土資料を活用して，世界遺産登録以前と以後の住民の生活の変化について調べたり，他地域の世界遺産と比較したりすることで，荻町集落の世界遺産には人が住んでいるという特色があることを理解することができる。【知識・技能】
5	なぜ，合掌造りは，業者に委託せずに屋根ふきを行っているのだろうか。	地域で合掌造りを守る理由を話し合うことを通して，村で大切にされている結も世界遺産の一部であることを考えることができる。【思考・判断・表現】
6 7	守る会は，どのようにして世界遺産を守ってきたのだろうか。(見学・調査)	合掌造りの見学や守る会の方へのインタビュー調査を行い，守る会の願いや守ることの努力(住民憲章)について必要な情報を集め，理解することができる。【知識・技能】
8 本時	なぜ，守る会は，50年守り続けた住民憲章の「貸さない」を変えようとしているのだろうか。	50年守ってきた住民憲章を見直している理由について話し合うことを通して，荻町集落の現状と関連付けながら，世界遺産の守り方について考えることができる。【思考・判断・表現】
9	これから先も，白川村に古くから残るものを受けつぐために，自分たちにできることを考えよう。	地域の伝統や文化の保存や継承に関わって，自分たちにできることを選択・判断することができる。【主体的に学習に取り組む態度／思考・判断・表現】